

強制徴用判決、慰安婦財団解散について、日本の抗議が続いています。

慰安婦ドキュメンタリー映画の上映会場では、右翼団体が集会を開いています。

耐えかねた監督側が法的対応に出ました。

東京でのキム・ボムソク特派員です。

[レポート]

《日本語》

「お帰りください。警告します。」「何が警告だよ！」

映画の上映会場に現れた右翼団体のメンバーが、慰安婦ドキュメンタリー映画「沈黙」の上映を阻止すると言って無理矢理侵入しました。

在日同胞の朴壽南監督と弁護士140人は横浜で活動中に、右翼団体に300mの接見禁止仮処分命令申請を出し、裁判所は、これを受け入れました。

【神原元弁護士】

「表現の自由を踏みにじること、民主主義の根幹を揺るがすことは到底容認できません。」

身体が不自由の83歳になる監督は、身の恐怖まで感じたと言いました。

【朴壽南監督】

「生きた心地がしませんでした。何が起こるか分からない。このドキュメンタリーを作る時もそうでしたし。」

最近、韓日関係の悪化で、右翼の抗議の集会規模は大きくなっています。

[朴麻衣氏/映画プロデューサー]

「9月から突然（右翼の抗議が）始まり、いろんな団体や個人に広がっているというとても不気味な雰囲気を感じています」

一方、韓国をきちんと知るための映画祭を開催する日本人たちもいます。

【金子きわ子さん：日本大学映画学科】

「日本の暗い部分に対して、私たちが提起し、私の同じ年齢に学生達に何か伝えることができると思います。」

映画ドンジュ（尹東柱）など日韓近代史関連作品18本が上映されます。

東京でチャンネルAニュースキム・ボムソクです。